

令和4年度 岩手県立大学宮古短期大学部
学校推薦型選抜・社会人選抜

解答例・出題の意図等

【問題全体についての出題の意図等】

標準的な読解力と本文の内容を踏まえ、自分の意見を解答する問題形式となっている。知識を身につけることも重要であるが、その知識の活用や応用についての本文における内容のまとめ、さらにはこれまでの学びとそれを活かして今後社会に出ていくために求められる実用的な知識とは何なのかを、自分自身の経験やこれから身につける学びを踏まえ、受験者がどのように考え、説明しているのかを論じる問題となっている。

〔問1〕

■解答例

従来の学びとは、情報をただ頭の中に取り入れることであり、学校の大半の試験問題は、そのような取り入れた知識をもとに、試験問題に対し100点満点の解答をすることであった。しかし、本文での「本来の知識」とは、得られた情報をもとに、新しいことを考える能力、自分で判断し行動する能力を指している。そのため、本文での「本当に人間として大事な能力」とは、単に知識を詰め込むのではなく、詰め込んだ知識を活用し問題解決ができる能力と言える。(209字)

■評価のポイント

本文における『知識量と思考力はたいてい反比例する』というタイトルと本文における内容を適切に捉えられているか、単なる詰め込みの知識に対する「自分自身で考える能力がなくなる」ということが問題となる点が説明できているかが評価の対象となる。また、それを踏まえた上で、本文での「本来の知識」とは何なのかも論じられているかが採点の際に重要となる。

〔問2〕

■評価のポイント

本文で述べている「知識」とは、ある問題に対し、所謂「絶対的な正解」を答えられる能力ではない。そもそも、これから短大で学んでいく学問分野(例えば、専門分野である経営・経済、経営情報、情報科学)における様々な問いには、このような「絶対的な正解」はなく、学んでいくことを踏まえ、色々な可能性を模索しながら、自分自身で考え抜いた自分なりの答えを導き出していくことが求められる。単なるクイズのような問題であれば、現代ではインターネットやAIを駆使すれば、すぐに解答は得られる。知識メタボリック症候群にならず、機械ではなく、我々人間にしかできないこととはそもそも何なのか？受験者が今後のために、何を学び、改めてどのような力をこれから身につける必要があるのかを論じられているか、などが評価対象となる。